

第15回河川生態学術研究発表会 開催報告

水循環・まちづくりグループ 横田 潤一郎

1. はじめに

第15回河川生態学術研究発表会は、平成24年11月30日(金)に科学技術館サイエンスホール(東京都千代田区)にて開催され、日本全国より約100名の学識者、行政関係者、コンサルタント等が参加しました。

本会は、河川生態学術研究会と応用生態工学会の共催により開催されました。口頭およびポスターによる発表があり、その後の総合討論では、応用生態工学会からのアドバイザー委員も交えて活発な意見交換が行われました。

2. 河川生態学術研究発表会について

「河川生態学術研究会」は生態学的な観点より河川を理解し、川のあるべき姿を探ることを目的に、生態学と河川工学の研究者が共同で研究活動を行う団体です。この目的の達成に向けて、『河川流域・河川構造の歴史的な変化に対する河川の応答を理解する』、『ハビタットを類型化し、その形成・維持機構、生態的機能を明らかにする』、『洪水や渇水などの河川が本来持つ攪乱などの自然のインパクト及び河道や流量の管理、物質の流入などの人為的インパクトの影響を明らかにする』など複数のテーマを設定し研究を進めています。

現在は十勝川、千曲川、多摩川、五ヶ瀬川水系、及び、各河川の研究成果を総括して比較研究する総合研究グループを加えた5つのグループで活動しています。

3. 発表会の内容

○口頭発表

5つの研究グループより、表に示す概要報告・研究発表あわせて11の発表が行われました。

○ポスター発表

河川生態学術研究会の各河川研究グループより8の発表が行われました。中でも「霞堤の生態的機能に関する研究」(富山雄太氏ほか、九州大学大学院)「五ヶ瀬川、球磨川、遠賀川河口域のハゼ亜目魚類相の比較」(岡本佳之氏ほか、九州大学大学院)の2件は、研究テーマの重要性や成果の完成度が高く評価されました。

○総合討論

口頭発表、ポスター発表を踏まえた総合討論においては、特に『河川の複断面化』『河道の樹林化』に

ついて高い関心が集まりました。川の構造が変化してきている中で、これらの課題にどう取り組んでいくかなど、聴講者を含めた活発な意見交換が行われました。

口頭発表題目

1. 多摩川研究グループ	
概要報告	座長(知花 武佳代表代理)
関東周辺の扇状地河川の比較から考える樹林化の要因	
	知花 武佳(東京大学大学院工学系研究科 准教授)
河川流域におけるハリエンジュの分布拡大機構と林分管理	
	崎尾 均(新潟大学農学部 教授)
2. 十勝川研究グループ	
概要報告	座長(中村 太士 代表代理)
水生昆虫のベータ多様性維持に果たす湧水河川の役割	
	根岸 淳二郎(北海道大学大学院環境科学院 特任助教)
残存後背湿地の連結性と水生生物の多様性	
	石山 信雄(北海道大学大学院農学研究院 博士課程)
3. 千曲川研究グループ	
概要報告	座長(平林 公男 代表代理)
信濃川水系・犀川におけるハリエンジュの侵入過程と河畔植生に与えるその影響	
	島野 光司(信州大学理学部 准教授)
千曲川中流域・戸倉地区での自然再生事業において新規創成された瀬ハビタットにおける底生動物種群の定着プロセス、および定着種群の遺伝的構造・多様性について	
	東城 幸治(信州大学理学部 准教授)
4. 五ヶ瀬川水系研究グループ	
概要報告	座長(杉尾 哲 代表)
哺乳動物の行動予測および氾濫原の生態的機能に関する研究	
	傳田 正利(独立行政法人土木研究所水環境研究グループ 主任研究員)
ハゼ亜目魚類群集と水際環境構造の関係について	
	鬼倉 徳雄(九州大学大学院農学研究院 助教)
汽水域の甲殻類の生物生息空間の機能を確保する水域環境の保全と創出	
	伊豫岡 宏樹(福岡大学工学部 助手)
5. 河川総合研究グループ	
概要報告	座長(萱場 祐一 代表)



総合討論

4. おわりに

近年、自然再生・都市再生、景観は川づくりの重要な課題となっています。河川生態学術研究会は、これらの課題に対する様々な科学的な知見を明らかにしていく役割として、その重要性を増しています。全国の河川別研究グループ、河川技術者が一堂に会した本発表会の継続により、河川環境の保全・再生に関わる情報交換の場を提供していきます。